



相ノ木っ子だより

令和2年度
学校だより
3月号
上市町立相ノ木小学校



卒業生と在校生の心 ~託す思いと受け取る思い~



「今日はコロナを忘れるくらいの集会にします」

先日、「ご卒業おめでとう集会」と題した卒業を祝う集会を行い、始めの言葉で5年生の男の子はそう宣言しました。その言葉通り、たいへん楽しく、心温まる時間を過ごすことができました。1年生のかわいらしさ爆発の卒業生へのメッセージ、2年生と卒業生の真剣勝負が見事だった九九対決、卒業生の思い出を辿る3年生の工夫されたイントロクイズ、卒業生への感謝を込めた4年生の器楽演奏と合唱、5年生と卒業生の豆つまみや牛乳早飲みの壮絶な対決と会場を盛り上げた「夏祭り」、そして、お返しの6年生十八番のキレッキレのダンス。在校生は卒業生の卒業と進学を祝う気持ちと感謝の思いを表し、卒業生は在校生に学校への思いを託しました。

今年度を振り返ると、子供たちにはたいへん我慢を強いることになった1年間だったと思います。特に、コロナ禍という人類の歴史的な出来事の中、小学校生活の締めくくりを迎えねばならなかった卒業生の胸中を想像すると、きっと一言では言い表せられない感情が入り混じった日々だったろうと思います。昨年の今頃の得体のしれないコロナへの恐怖といったものが何だかずいぶん昔のように感じる反面、この1年間の対応の目まぐるしさによって時の経つのが早いような気もします。それだけ大きな転換期であったし、わたしたちそれぞれの生活態度や心構えがとても変わったのだと思います。そうした1年間を過ごした分、今年の祝う集会に卒業生は格別の思いがあったろうし、在校生もしっかりと祝ってあげたいという気持ちが強かったかもしれません。集会は、卒業生、在校生どちらにとっても、この1年間を締めくくる一つのけじめ、大きな区切りとなったことでしょう。

わたしの小学校の卒業式（昭和50年3月ですから、半世紀近く前になります。ああ恐ろしい）は、4クラス140名程の卒業生と700名程の在校生で行いました。ちょうど新校舎が完成した年でもあり、旧校舎からの引っ越しをしたり、新校舎での初めての卒業生だったり、ごちゃごちゃしたまま巣立ったような気がします。ですから、これといった記憶はあまり残っていないのですが、母校の門から去り難い気持ちでゆるゆると歩いて帰ったことは覚えています。まあある意味、小6にとっての卒業式は、何だか誇らしく、ちょっとうれしく、気恥ずかしいぐらいのものなのかもしれません。それでも、人生においても長い6年間、精神的にも身体的にも一番伸びる時期であるからこそ、校舎、在校生、先生たちとの別れや、そこから一歩踏み出すことは、大きな変わり目であることは間違いありません。

自分にとって、本当に大事なことって何だろう。

自分にとって、本当に大切な人って誰だろう。

このふたつを、本気で思っているだけで、
いい人生が送れるような気がする。



これは、コピーライターの糸井重里氏の言葉です。これから歩み出す社会や未来を考えると、目標「自分を大切にする」に取り組んできた相ノ木小での日々が、卒業生のこれからの成長に少しでもよい影響や刺激となってくれることを願わずにはられません。

暖かな陽気、膨らんできた桜のつぼみ。幾分春めいてきました。もうすぐ卒業式です。巣立っていく21名の相ノ木っ子たちには、たくましく、前向きに、そしてしなやかにこれからの人生を歩んでほしいと思います。

「わかりやすい」と「わかりにくい」どっちがいいの？

『「わかりやすい」ことばかりでいいのか？』

先日ある書物を読んでいて、上記の言葉がぱっと目に飛び込んできました。武田砂鉄さんというフリーライターの方のインタビュー記事で、「わかりやすい」情報ばかりに触れることへの危惧について話されているものでした。わたしも同じことを常々感じていました。巷には「わかりやすさ」が蔓延しています。メディアやSNSは「今起きていることをいかに瞬時に伝えるか」ばかりに力を入れ、パッと見てわかる情報でないと見てもらえません。対人関係においても、わかりやすく話すことが求められます。短時間で効果のあるもの、即時性や利便性のあるものがよしとされ、時間のかかるものや無駄の多いものは価値のないものと判断されます。世の中のあらゆる分野で、わかりにくいものは敬遠されがちです。でも、そんな価値観ばかりが優先される社会で本当によいのか不安に思う時があります。わかるものだけをわかろうとする現代人の姿がどうしても見えてきて、果たしてそれでよいのだろうかと思わずにはいられません。

そう言っているわたし自身も、正直なところわかりにくいものを選ぼうとはしませんし、わかりやすい方が気持ちよく扱うことができます。わかりやすいことは決して悪いことではなく、とてもよいことなのです。学校でも、子供たちにわかりやすい授業を目指しています。「納得した」「勉強はおもしろい」といった反応を引き出すためには、子供たちにわかりやすく教えていかなければなりません。ただ、世の中があまりにもわかりやすさばかりを追求し過ぎていることが気にかかります。わかりやすさばかりを美德としていくことは、わかりにくいことについては考えようとしなくなる危険性があるからです。そして、最初から分かりにくいことを拒絶してしまうような人に子供たちにはなってほしくないのです。1月号でも書いた3学期の目標「とことん考え抜く」にも通ずるものです。わかりにくいことやわからないことを考える意義として、個人や集団を豊かにする面がきっとあると思います。わからないこと、わかりにくいことは、面倒くさくて、時間がかかることかもしれませんが、そこに新たな発見、気付き、成長が生まれるはずですよ。

イタリアの彫刻家・画家である、才能豊かなミケランジェロが次の言葉を遺しています。

最も危険なのは、高すぎる目標を達成できないことではない。

低すぎる目標を達成してしまうことである。

わかりやすいものとしか出合わない、わかりやすいものばかりを克服していく、そんな人は自身をきつと危険にさらしているんですね。「わかりやすい」と「わかりにくい」どちらがよいかという二者択一ではなく、さらに進化した考えへと追究していく向上心を育む「わかりやすさ」と粘り強さや独自性を生み出す「わかりにくさ」、どちらもよいものであり、その組み合わせが大事だと考えます。学校でも、よりわかりやすい授業を目指して学ぶ楽しさと学びの意義をしっかりと味わわせながら、時折複雑でわかりにくい課題に取り組ませることでとことん悩む根気と考える力を育てていきたいです。

相ノ木っ子のみんな、難解なものにもへこたれず、あきらめず、ぶち当たっていきましょう。Fight!

行事予定(3月中旬～4月中旬)

3月16日(火) 卒業式予行

18日(木) 卒業式準備

下校 1～4年・6年 13:30 5年 15:00

19日(金) 卒業証書授与式 下校 11:30

20日(土) 春分の日

23日(火) 地区児童会 下校 14:30

24日(水) 修了式

下校 1～4年 13:15 5年 14:00

25日(木) 学年末休業(～4/5)

4月 6日(火) 離任式・新任式・始業式

7日(水) 入学式

8日(木) 1年交通安全教室

13日(火) 学力調査(国語・理科)

14日(水) 学力調査(算数・社会)

